

『一心千里』

永田隆一

走ってれば、
見えてくる



第125回

人は孤独です。仕事仲間がいて、家族も学生時代からの友人もいる。でも、何かの折にとでも淋しい、孤独などかみしめる時があるものです。

人間は体と魂から成っているという人がいます。4000万年前に人間の祖先が出てきて、子孫を増やしていく過程で、リ・インカーション(輪廻転生)で魂が生まれ変わるのです。人間の肉体に比べて、魂の数が足りない状態になります。そして、1つの魂が2つに割れて、新しく生まれまた2人の体に宿る。

とが起きます。ツインソウルといえます。世の中でツインソウルの2人が出会うと、自分の足りない半分を完璧に補い合えるそうです。

人間は、引き裂かれた自分の半分に出会うことを無意識に求めている。出逢えなければ、結局孤独は解消されない。

そして人間は、ツインソウルには確率的に出会えないので、孤独が解消されることはないのです。

「亮太さん、最近お客様に伝えたいことを、うまく伝えることができません人生を終える」。

せん、落ち込んでいます」

「誰かさん、すべてのビジネスマンが歩いてきた

何を伝えたいかを考えて

何が伝わったかを省みる

道です。そして、2割の人は問題意識を持って、雄介君のように人に教えることをしたり、できるビジネスマンを注意深く観察して真似をすることで克服する。しかし、残りの8割の人はプロアクティブに動くことをしない。そのままビジネス人生を終える」。

「僕は克服できませんか」
「何の困難もない。紙面の表裏の裏が君を生み、1人で育ててくれた。頑張った生きた君の意地が君の体にも流れている。だから大丈夫だ。私が保証しよう」。

が、交通費を自己負担しなければなりません。昔は企業が旅費を負担していたようですが、数年前から不景気と学生が大勢来るので、学生の自己負担になったようです」。

「真田ちゃん、雄介くんは32歳だ。さて、真田ちゃん、女将さんも参加して下さい。ゲームをしよう。質問です。雄介くんはどういう仕事をしていると思いますか。趣味は何だと思いますか」

「部長、チームが技術部長を満する。5分のロールプレイングだ。そして練習が始まる。そうすると、お客様に伝える技術がぐんと上がったと実感できる。重要なのは、クローリングだ、部長に部下をアサインしてもらい、東京のラボに男性に来てもらう。それを目的に面会のシナリオを準備する。ここでお客様への質問の技術も練習しなければならぬ」。

2人は大阪ミナミの料理屋へ入った。煮物や

「大阪だね。でも、大阪、神戸でも良い企業はたくさんあるよ」

「仕事は介護師、趣味はゲーム」「女将さんは」「異服問題の若目部長。趣味はキャバクラ遊び」

「笑」。雄介君、見た目でも伝わらないことが多い。話して伝えることはもっと難しいと考えよう」。

雄介君が載せられた血がカウンターに並べてある。笑顔が素敵なお女将さん。就活中の女子大生がカウンターに入っている。

「真田ちゃん、就活はどうか。たしか医療業界、バイオ業界が志望だったね」「亮太さん、聞いて下さい。東京へ企業説明会へ行くのです」

「真田ちゃん、30代前半にシリコンバレー企業に転職した時の話をしよう。同僚のビルに大手企業の技術部長を訪問する話をしたら、ちょっと待っててタイムを連れてきて。さあ、亮太さん、練習だ。僕がお客さんの資

「女将さん、30秒で自己紹介をして下さい。そして、質問をさせて下さい」
「いいわよ」「質問です。惚れた男性の人数は」「もちろん1人です」「では、好きな体位は」「それはもちろん、惚れた敵方よりです」「あれ(笑)」。

(毎月連載)